

1. 事務事業の目的・概要

| | | | |
|----------|--------------|------|--------------|
| 事務事業担当課長 | 高齢者福祉課長 稲田 勝 | 電話番号 | 0852-22-5236 |
|----------|--------------|------|--------------|

| | | | |
|---------|--|---|--|
| 事務事業の名称 | 認知症対策推進事業 | | |
| 目的 | (1) 対象 | 県民 | |
| | (2) 意図 | 早期の段階から適切な診断と対応、認知症に関する正しい知識と理解に基づく支援などを通じて、地域単位で総合かつ継続的な支援体制を確立する。 | |
| 事業概要 | 1. 認知症についての理解を深める活動（認知症サポーター養成講座のPR、キャラバンメイト養成） 2. 相談への対応（地域包括支援センター、認知症疾患医療センター） 3. より良いケアの推進（介護従事者研修会の開催） 4. 適切な医療と介護を提供するシステムの構築（認知症サポート医の養成、医療従事者の研修、認知症疾患医療センターの設置等） | | |

2. 成果参考指標

| 成果参考指標名等 | | 年度 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度 | 単位 |
|----------|----------------------------|-------|----------|----------|----------|----------|----------|----|
| 1 | 指標名 認知症サポーター数（累計） | 目標値 | 50,000.0 | 55,000.0 | 60,000.0 | 65,000.0 | 70,000.0 | 人 |
| | | 取組目標値 | | | | | | |
| | 式・定義 認知症サポーター養成講座を受講した人の累計 | 実績値 | 57,083.0 | | | | | |
| | | 達成率 | 114.2 | - | - | - | - | % |
| 2 | 指標名 地域包括支援センターにおける総合相談件数 | 目標値 | | 52,000.0 | 53,000.0 | 54,000.0 | 55,000.0 | 人 |
| | | 取組目標値 | | | | | | |
| | 式・定義 地域包括支援センターにおける総合相談件数 | 実績値 | 50,671.0 | | | | | |
| | | 達成率 | - | - | - | - | - | % |

3. 事業費

| | 前年度実績 | 今年度計画 |
|--------------|--------|--------|
| 事業費 (b) (千円) | 53,999 | 49,112 |
| うち一般財源 (千円) | 31,303 | 38,126 |

4. 改善策の実施状況

| | |
|---------------------|-------|
| 前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況 | (未選択) |
|---------------------|-------|

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

- ・事業概要1：認知症サポーターは平成27年度に対前年比9,190人(19.2%)増加した。キャラバンメイトは1,512人(平成27年度)対前年比81人増加した。
- ・事業概要2：地域包括支援センターにおける平成27年度の総合相談件数は50,671件となり、対前年比5,934件増加した。認知症疾患医療センターは3カ所に増え、平成27年度の相談件数は1,176件となり、対前年比285件増加した。島根大学医学部附属病院（858件）、安来第一病院（160件）、松ヶ丘病院（158件）
- ・事業概要3：介護従事者研修修了者が平成27年度は対前年比463人増加した。
- ・事業概要4：認知症サポート医は6人増加した（平成27年度末：52人）。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

- ・認知症サポーターは年々増加しており、啓発の取組が進んでいる。
- ・地域包括支援センターの総合相談件数が対前年比5,934件増加した
- ・認知症疾患医療センターが3カ所となり、相談体制が拡充された。
- ・認知症サポート医は年々増加し、地域ごとに認知症の人に適切な治療を提供するための体制が整備されつつある。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

- ①困っている「状況」
- ・相談の場、介護の場、医療を提供する場等、それぞれの機能は充実しつつあるが、連携が不十分である。
 - ・かかりつけ医、歯科医師、薬剤師、病院勤務の医療従事者等、様々な関係者の認知症対応力を向上させる必要がある。
- ②困っている状況が発生している「原因」
- ・連携する仕組みの構築が不十分である。
 - ・地域ごとに取組を進める必要があるが、それを調整する機能の位置付けが不明確。
- ③原因を解消するための「課題」
- ・連携について検討する場の設定
 - ・連携を具体的に進める方法の検討
 - ・保健所を中心とした取組の検討

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

- ・認知症施策検討委員会で検討してもらう。
- ・研修会を開催する(目的：実態の共有化、それぞれの役割の認識)。
- ・圏域ごとに研修会を開催する。また、関係者のネットワークを構築する。

・課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効果的・効果的に行ってください。

・上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）